

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2023年7月14日）

■第1版 第3刷（2022年4月25日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758121002_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
1章-2					
32	解答b②⑧、解説	⑧ 8 化学反応や結合にかかわる最外殻電子のことを価電子とよびます。	⑧ 8(0) 化学反応や結合にかかわる最外殻電子のことを価電子とよびます。 化学反応や結合に関する電子という観点から、希ガスの価電子を0とすることがあります。		22/06/03
2章-2					
44	表2-3 塩化水素の電子式	$\text{H}:\text{Cl}$	$\text{H}:\text{Cl}:$	Clの価電子を追加	22/05/20
3章-2					
68	13行目	質量パーセント濃度(%)は、溶液(g)中に含まれている 溶媒 (g)の割合…	質量パーセント濃度(%)は、溶液(g)中に含まれている 溶質 (g)の割合…		22/07/08
5章-2					
115	5行目	…どちらの方向にも 反応 が進む反応を	…どちらの方向にも進む反応を	赤字削除	22/11/18
118	10行目	…バッファー)といえます。	…バッファー)といえます [※] 。 (側注として以下を追加) ※ 弱酸または弱塩基とその塩の混合水溶液が緩衝液として用いられます。		23/07/14
6章-2					
136	図6-3	フィッシャー投影式		赤字削除	22/11/18
137	2行目	紙面から奥に向いていることをあらわします(図6-3)。 フィッシャー投影式であらわしたグリセルアルデヒドの2つの鏡像異性体も図6-3に示します。 不斉炭素原子に結合するヒドロキシ基(-OH)の位置が左に描かれるものをL-グリセルアルデヒド、右側に描かれるものをD-グリセルアルデヒドとよびます。	紙面から奥に向いていることをあらわします(図6-3)。 2つの鏡像異性体のうち、 不斉炭素原子に結合するヒドロキシ基(-OH)の位置が左に描かれるものをL-グリセルアルデヒド、右側に描かれるものをD-グリセルアルデヒドとよびます (図6-3)。		22/11/18
137	COLUMNS タイトル	フィッシャー投影式	フィッシャー投影式 と鏡像異性体	赤字追加	22/11/18
137	COLUMNS 右段3行目	不斉炭素原子が複数存在する分子の フィッシャー投影式 の場合は、	不斉炭素原子が複数存在する分子の場合は、	赤字削除	22/11/18
139	5行目	α型 はアノマー炭素原子(C1)のヒドロキシ基(-OH)は下側を向いており、-CH ₂ OH基の反対側にあります。 β型 はアノマー炭素原子(C1)のヒドロキシ基(-OH)は上側を向いており、	α型 はアノマー炭素原子(C1)のヒドロキシ基(-OH)が下側を向いており、-CH ₂ OH基の反対側にあります。 β型 はアノマー炭素原子(C1)のヒドロキシ基(-OH)が上側を向いており、		22/11/18
6章-3					
155	下から8行目	食物由来の脂質は、 <u>キロ</u> マイクロンとして、肝臓で合成された脂質はVLDLとしてそれぞれ血中に放出されます。	食物由来の脂質はキロマイクロンとして、肝臓で合成された脂質はVLDLとしてそれぞれ血中に放出されます。	赤字削除	22/11/18